

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立浦和第一女子高等学校・定時制)

目指す学校像	一人一人が大切にされ、落ち着いて学べる教育を推進し、社会ではばたく力を育てる。
--------	---

重点目標	1 「授業がいのち」を合い言葉に、一人一人の学力に応じた丁寧な指導を通して基礎学力の充実を図る。 2 生徒の実態に即したきめ細かな指導を通して将来への展望を拓かせる。 3 地域社会・保護者等と連携した教育活動を推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 生徒間の学力に差はあるが、全体として学習意欲はあり、授業についての満足度も高い。学習習慣が定着していない生徒がいる。 【課題】 ・「授業がいのち」という学校文化を定着させる。 ・学習習慣を定着させる。 ・学習意欲の向上と基礎学力の充実を図る。	生徒が主体的に取り組む学習環境を整える。 生徒が授業の予習復習や補習に参加するなど学習習慣を定着させる。	○担任が年度当初の面談等で生徒の状況を把握し、全教員で情報を共有する。 ○教務部を中心に、生徒のニーズに応じた授業形態の工夫や講演等を企画する。 ○教務を中心に、年度当初に学習サポートに係る環境整備を実施し、参加生徒の増員を図る。	授業アンケートで、授業の内容や授業規律の確保について、教員・生徒双方の満足度が高まったか。 学期末の欠点保有者が減少したか。 生徒に学習習慣が身についたか。学習サポートにより多くの生徒が参加したか。	授業アンケートでは、授業の満足度に関するすべての項目で9割以上の生徒が「概ね満足」と回答している。 欠点保有者は昨年同期と同数の7名であった。 学習サポートの始業前補習は、2学期末現在で85回実施し、教員も輪番で参加するなど環境整備が図られた。	A	授業中の私語やスマートフォン等の使用がより減少するよう、教員が共通した指導をすることで、「授業がいのち」という学校文化の一層の定着を図る。 生徒の個別の援助ニーズを把握することで、支援を必要とする生徒に具体的な支援策を講ずる。
2	【現状】 4年間を見据えた系統的な進路指導体制が整い、質的充実に向け取り組んでいる。小規模校ながら、充実した学校行事や部活動等が行われている。 【課題】 ・進路行事の実施時期の最適化や他の行事との関連づけを図る。 ・学校行事等の精選と充実を進めると共に、生徒主体の運営を行う。 ・校外での体験活動やアルバイト等を推奨する ・生徒がより満足する進路を実現させる。	日常の学校生活と学校行事等をより充実させる。 教科領域横断的で系統的な進路指導計画を実施する。	○生徒指導部を中心に、通年で基本的な生活習慣の確立に向けた指導を強化する。 ○生徒会を中心に、行事等で生徒の成功体験を賞賛し、生徒に自信を持たせる。 ○保健部を中心に、健康管理意識を高める。 ○進路指導部が策定した進路指導計画に沿って、一人一人の進路希望の実現にむけて着実に指導を行う。 ○教務部を中心に、進路行事や各種講演会に関する振り返りの時間を設け、内容の定着を図る。 ○進路指導部を中心に、就職支援アドバイザーと連携し、4年生を中心に個別支援を行う。	生徒の出席状況は良好であったか。学校行事等学校生活の満足度が高まったか。 懲戒処分や安易な進路変更を防止できたか。 進路行事等の振り返りシートの記述に進路意識の高まりが見られたか。 1～3年生にアルバイト等、具体的な行動が見られたか。 4年生が希望の進路を実現できたか。	出席状況は概ね良好であった。学校生活に関するアンケートでは、9割以上の生徒が「入学してよかった」と回答するなど、高い満足度を示している。 2学期末現在で、懲戒処分は1件1名、退学者は4名である。 高校生自立支援事業の導入が円滑に行われ、計画した進路行事はほぼ遂行された。 進路指導部を中心に、就職支援アドバイザー、学習サポーターなどの外部人材と連携して生徒への個別の支援を行った結果、11月中旬に4年生全員が希望の進路を実現できた。	A	時間を意識し、健康管理を行うことで学校生活を充実させるよう、引き続き指導する。 生徒主体の行事を丁寧に支援し、生徒の自己肯定感をほぐす。 これまでの進路指導を継承し、生徒の希望の進路実現をより確実なものとする。 進路意識が高まってはいるものの具体的な行動に移せていない生徒に対して、後押し指導を行う。
3	【現状】 講演会等に積極的に外部人材を活用している。ホームページによる情報発信が充実してきた。 【課題】 ・保護者の学校への関心をより高める。 ・地域の方々等に生徒を直接見ていただく機会を増やす。 ・地域社会に対して生徒が直接情報発信する機会を設ける。	P T A活動を活性化する。 地域社会との連携を深める。	○P T A部を中心に、保護者に行事への参加を促す。 ○担任を中心に、生徒の様子を家庭に対して逐次連絡する。 ○教務部を中心に、講演会等を地域に開放すると共に、学校公開等で生徒が直接発言する機会を設ける。 ○生徒会を中心に、地域行事への参加を呼びかける。	学校に対する保護者の満足度が高まったか。 学校行事等における保護者の参加数が増加したか。 生徒の活動の様子をホームページ等で逐次発信したか。 講演会等に地域の方の参加があったか。 生徒の活躍の場を設けることが出来たか。 生徒が地域の行事に参加したか。	学校生活に関するアンケートでは、9割以上の保護者が「入学させてよかった」「一女は魅力的」と回答するなど、高い満足度を示している。 学校行事や部活動を中心に、週に2回以上のペースでH Pを更新できた。 講演会を地域に開放し、2回の講演会に自治会から参加していただいた。 4月の桜祭りと7月の夏祭りに、生徒会の生徒が奉仕参加した。	A	引き続き月1回の一斉メールとH Pの更新で、学校の取組を積極的に発信し、保護者の学校への関心を高める。 P T A理事会への参加を積極的に促し、保護者との連携を密にする。 講演会等のお知らせを余裕を持って自治会にお知らせし、開かれた学校づくりに努める。 地域の状況を把握し、生徒の地域行事への参加を促す。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成30年2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>授業に対する生徒の満足度が高いというアンケート結果は大変よろしいことである。学習サポートを給食室でのリビング学習に切り替えたことに加え、教員が参加したことが功を奏したと思われる。一斉展開の授業においても個別的な関わりを大切にしながら、基礎基本の定着を目指す双方向的で丁寧な授業が行われていることが伺える。</p> <p>中学校で様々な躰きを体験した生徒たちに対して、基礎学力を身につけさせることに加え、学校行事への取組の中で、一人一人に役割を与えることで、自己肯定感や自己有用感を育み社会に出ようとする意欲を持たせていることが、進路結果に現れている。一人一人を大切に育てるという学校の姿勢が、本人たちにとっては将来にわたって、「浦和一女を卒業した」という思いとなり自身を支える礎となるであろう。若いときにいろいろな方面から自己を見つめ直すということは、大変貴重なことであるので、生徒には今後も様々な体験をさせていただきたい。</p> <p>常に課題意識を持って学校運営に取り組んでいることが伺え、保護者の立場からは安心して子供を学校に通わせることができると思われる。高砂小、岸中、浦和一女高がある文教地区としての住環境を大切にしたいと考えており、地域の行事に生徒が参加してくれることはありがたい。夏祭りにおける休憩所の手伝いでは、子供御輿の小さい子らに、積極的に声を掛けてくれていたことが好評であった。</p>	